

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

## 資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 傾聴 | 傾聴のトレーニング (12)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&amp;A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

### 傾聴のトレーニング (12)

最上級の傾聴とはどのようなものだろうか。

それは話し手が、聴き手の応答を聴いているうちに、安心して、自分の内側にふれて、自分の内側にスーッと深く入っていくことができるような、そんな傾聴である。

#### 第4ステップ

##### 「話し手が安心して、自分自身の内側に深く入っていける傾聴」の練習

カウンセリングで大切なのは、「適切な内容を的確にすばやく伝え返す」ことではない。カウンセラーが、「どのような雰囲気、どのような話し方で、クライアントの迷い苦しむその気持ちとまさに同じ次元に踏みとどまっているかを伝えていく」ことが大切なのである。

つまり、カウンセラーが「何を言うか」よりも、「どのように言うか」のほうが重要だ。

カウンセラー自身が、一方では自分の心を「空」にして、虚心にクライアントの話に耳を傾けながら、同時にまた、話を聴いているときの、自分の内側のこころの動きにいていないに意識を傾けながら、自分の内側と「一致」して、自分の内側に深く入り込みながら、そこから言葉を発していくことが重要だ。

すると、クライアントのほうも、安心して、自分の内側に深く入っていきやすくなる。

安心して、ていねいに、自分の内側にふれることができるようになる。

こうした傾聴ができるようになるために必要な学習は、まずさまざまな体験的なワークショップに参加するなどして、自分の内側に、深く、かつ、ていねいにふれていく体験を積むことだ。

それによってまず、カウンセラー自身が、自分自身の内側深くに、やさしく、ていねいにふれていくことができるようになっていくことが大切である。

なぜならば、それができないとクライアントが、自分の内側にふれて、そこにとどまって、自分の内側に入っていくお手伝いすることはとてもできないからだ。

カウンセラーがフォーカシングを学ぶことの本当の意味はここにある。

フォーカシングという技法を使う、ということではない。

フォーカシングを学ぶことで、クライアントの話を虚心に聴くときの、カウンセラーの自分自身への姿勢が深まり、変化していくことが重要なのだ。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

### Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.